

偉大なる先輩 — 橋本清春氏の回想録
第4回 終戦からシベリア抑留

偉大なる先輩 — 橋本清春氏の回想録

第4回 終戦からシベリア抑留

引き続き、橋本先輩の資料からの直接引用です。

1945年8月18日まで終戦を知らず

この日を境に、極寒の地シベリアにおいて長期間にわたって
劣悪な環境の下で、強制労働に従事し多大の苦難を
強いられたのである。

天皇の軍隊は国民を守らなかった
降伏の仕方さえ知らなかった
武器を置く
旧兵舎に集結
ソ連兵を始めて見る
終戦・帰国の道が、野宿8日の250キロ

日本に帰れる～日本に帰れる～

ウラジオストック経由が ～ 囚人列車は北に走る

そして、国際法を無視したソ連軍によって、
57万人※がシベリアへ

※この内、軍人や民間人を含め約6万人が死亡したと伝えられています。

※橋本先輩が抑留された地点は、コムソモリスク近郊です。

以下の地図上に丸に斜線がある部分です。

偉大なる先輩 — 橋本清春氏の回想録
第4回 終戦からシベリア抑留



スターリンは日露戦争の復讐戦に大勝利した。
その陰で、十八万人の日本人が満州、シベリアの地に果てた。
「正義の戦争」など、未来永劫、ありえようもない。

1) 抑留生活

終戦・帰国への道が

日本に帰れる？

抑留連行

囚人列車

軍事捕虜ラゲリ（強制労働キャンプ）収容所

帝政時代からの流刑地

内務省所轄

極限生活とは

零下40度もの土地で、でも夏もある

食事、日課、居住条件

警護体制

偉大なる先輩 — 橋本清春氏の回想録
第4回 終戦からシベリア抑留

内務省の軍人？

強制労働とノルマ（基準作業量）

各種作業をした日本兵

南京虫と虱（しらみ）

便所風景

貴重な水

ラーゲルの入浴風景

ラーゲリでの思想教育

演芸から徐々に、

捕虜の中から思想教育指導者を志願

思想教育のセンター 反米宣伝

日本新聞の発行

様々なアジテーション

苦しかった往時をしのび、「戦争をさせないこと」を次世代に
伝えることが、私たち旧世代の責務としての認識を
強めている今日である。

偉大なる先輩 — 橋本清春氏の回想録
第4回 終戦からシベリア抑留

2015年(平成27年)11月15日 日曜日 13版 36

はじめてのシベリア抑留の記録

1945年8月23日
日本人捕虜の強制労働を決定
ソ連の国家防衛委員会(議長スターリン)

約60万人を抑留
旧満州などにいた
日本軍将兵と一部民間人

約2000カ所
各地に設けられた
収容所の数

主な日本人収容所分布図
1945年ころ、旧厚生省資料から

モスクワ、カスピ海、イルクーツク、ウランバートル、ハバロフスク

おもな出来事

- 1941年 太平洋戦争開戦
- 1945年 8月9日 ソ連対日参戦
- 8月15日 終戦
- 8月23日 スターリンがソ連軍への抑留を命令
- 9月15日 ナホトカから舞鶴へ
- 9月26日 ナホトカからの最後の引き揚げ船が舞鶴へ
- 1993年 ロシアのユリイエン大統領(当時)が「全体主義が犯した罪」と謝罪
- 舞鶴引揚記念館の資料などから作成

伝わる抑留体験を

詩人 石原吉郎
作家 高杉三郎
文芸評論家 内村剛介

浮城郵便はがき
重労働や過酷な環境について書くことは許されず、検閲のため片假名で書かれた

手作りのメモ帳
セメントの袋で作った。縦7寸、横5寸ほど、靴の中に入れて日本に持ち帰った

手作りのスプーン
釜くずを暖炉で溶かし、わんがなどで作った型に流して作った。収容所では食器は用意されないことが多かった

労働の記録画
1946年に描いた炭鉱開発作業の様子。抑留中に描いた記録画は非常に珍しい

佐藤清「埋葬」
グラフィック・五藤 啓太郎

香月泰男「北へ西へ」(山口朝克美術展蔵)

木内信夫「抑留回想画」

読む
歴史的な概要を知るには栗原俊雄
『シベリア』(1991年)、『シベリアの抑留』(1994年) 小学館

酷寒・過労・飢え… 帰還後も険しい道

今回は、以上です。

しかし、厳しい抑留生活の内容は、
本当に想像を絶するようなことですね。

つづき。